



## 原油が大幅続落、需要の鈍さを意識 金は3日続落

7日の国内商品先物市場で、原油は大幅に続落した。原油需要の鈍さを意識した売りが国内原油先物に出た。米エネルギー情報局（EIA）が6日発表した週間の米石油在庫統計で、ガソリン在庫が増加した。6日のニューヨーク市場で原油先物が1バレル70ドルを下回り約半年ぶりの安値をつけ、国内相場に売りが波及した。

東京外国為替市場で円高・ドル安が進み、円建てで取引される国内原油先物の割高感が意識され、売りが出た面もあった。夜間取引で取引量の多い2024年4月物は一時1キロリットル6万7040円まで下げ、取引量の多い限月として7月下旬以来の安値をつけた。

金は3日続落した。米金融政策を読むために市場の関心度が高い11月の米雇用統計の発表を8日に控え、持ち高を調整する目的の売りが優勢となった。7日は日米金利が上昇基調だったことも金の売りにつながった。金は金利がつかない資産であるため、金利の上昇・低下と逆方向の値動きになりやすい。

以下は主な商品（中心限月）の清算値。

- ・金 9549円 32円安
- ・白金 4157円 88円安
- ・原油 6万7260円 2050円安

・ゴム (RSS) 240.6 円 2.9 円安

・トウモロコシ 3万 9190 円 120 円安

※単位は金と白金が 1 グラム、原油が 1 キロリットル、ゴムが 1 キログラム、トウモロコシが 1 トン。

原油は東京商品取引所、それ以外は大阪取引所での取引。

日経新聞



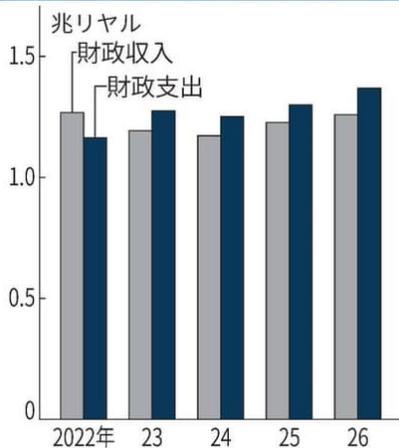
## サウジ 24 年予算、財政赤字続く 油価下落も改革支出拡大

サウジアラビア政府は 6 日、2024 年予算を発表した。財政赤字は 790 億サウジリアル（約 3 兆円）と 23 年見通しの 820 億リアルから赤字幅がやや縮小する。原油価格の下落などが歳入を押し下げるが、石油収入への依存から脱却を図る経済改革に向けた歳出は続ける方針だ。

24 年の実質国内総生産（GDP）の伸び率は非石油部門の成長により 4.4%となる見通し。23 年は原油価格下支えのために続けている減産の影響で伸び率が 0.03%にとどまると予想する。

ロシアによるウクライナ侵攻を背景に原油価格が高騰した 22 年は 1040 億リアルの財政黒字を記録した。23 年は予算公表段階で 160 億リアルの黒字を想定したが、その後の歳出増大に伴い赤字に転落する見込みだ。

### サウジは財政支出を拡大



(注) 23年以降は予想

サウジは 16 年に策定した 30 年までの中長期プラン「ビジョン 2030」で産業の多角化を柱とした改革に取り組む方針を打ち出した。24 年以降も脱石油依存に向けた歳出を増やし、財政赤字が続く見込みだ。

サウジ国営通信によると、改革の旗振り役である実力者ムハンマド皇太子は 6 日、予算について「投資誘致や産業の活性化と石

油以外の輸出拡大、インフラ強化などを進めるものだ」と説明した。非石油部門の成長を後押しする考えを強調した。

改革の進展に伴い、10年に710億リヤルにとどまっていた非石油部門の収入は23年に4410億リヤルに拡大する見通しだ。足元でも歳入の6割超を石油部門が支え、原油価格の変動が収支を左右する。

日経新聞



2023年 12月 8日 担当 虻川

## 日本ガイシ、低炭素メタノール生産効率化 ガソリン代替

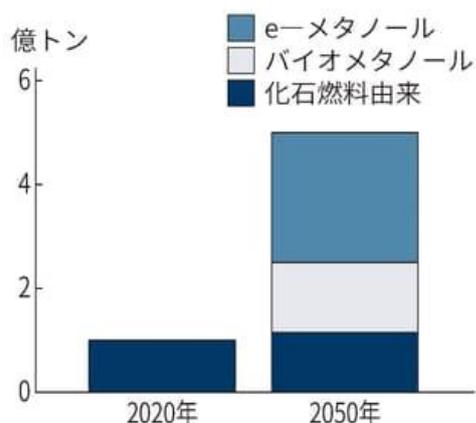
日本ガイシは環境負荷を抑えたメタノールを効率的に製造する機器を開発する。メタノールは医薬品や衣料品のほか、車のガソリンの代替となる合成燃料の原料にもなるが、天然ガスを使う製造手法が主流だ。二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）と水素でつくる環境負荷を抑えたメタノールの需要が脱炭素時代に高まるとみて対応を急ぐ。

「e-メタノール」と呼ばれる低炭素のメタノールは、再生可能エネルギー由来の電気で生成した水素と、工場の排ガスなどから回収したCO<sub>2</sub>の化学反応で生成する。その際に使うリアクター（反応器）を開発する。e-メタノールは脱炭素の流れを受けて需要が高まっているが、副生成物の水が化学反応を阻害することが課題だった。

日本ガイシのリアクターは水を分離できるセラミック製の脱水膜を搭載する。水を分離することでCO<sub>2</sub>と水素の反応効率は2～3倍に高まるという。既に社内で試験的な実証に取り組んでおり、2026年には化学メーカーやエネルギー企業と組みプラント設備に本格的に導入する予定だ。29年の事業化を目指す。

反応しきれなかったCO<sub>2</sub>や水素を回収して再びリアクターに戻すために必要だったエネルギーを削減し、製造にかかる消費電力量も従来の3分の1程度に抑えられる。

## メタノールも脱炭素が進む



(注)20年のバイオメタノールやe-メタノールの生産はわずか  
(出所)IRENA

メタノールは衣料品や医薬品などの生活用品から自動

車や船舶の燃料まで幅広く用いられる。欧州連合

(EU)は合成燃料を利用する場合に限り35年以

降もエンジン車の販売を容認する方針を打ち出すな

ど、世界的に需要の増加が見込まれる。

国際再生可能エネルギー機関 (IRENA) の予測に

よると、50年の世界の生産規模は年5億トンと20

年から5倍に拡大する。中でも従来より低炭素とされるe-メタノールは生産が拡大し、過半の

2.5億トンを占める。

ただ、e-メタノールの原料となる水素は供給網の整備が進んでおらず、製造コストを押し上げてい

る。IRENAによると化石燃料由来のメタノールの製造コストは1トンあたり100~250ドルである

のに対し、e-メタノールは1200~2400ドルかかる場合もある。日本ガインは製造効率を高める

ことで、製造単価の引き下げにつなげたい考えだ。



2023年 12月 8日 担当 虻川

## 三菱ロジスネクスト、無人フォークリフトで示した先駆性

フォークリフトで世界シェア 4 位の三菱ロジスネクストが 11 月、会社の存在意義「パーパス」を初めて公表した。2024 年 3 月期に 6900 億円を見込む連結売上高を「35 年度に 1 兆円に伸ばす」（宇野隆俊取締役）などの目標に向け、社内外に方向性を示した。

冒頭に並ぶ「パイオニア精神」「テクノロジーのカ」という言葉は、社員を交えた議論から採用した言葉だ。間野裕一社長は「まさに 2 代目島津源蔵氏の DNA が受け継がれている」と受け止めたという。

フォークリフト業界では 2000 年代に合従連衡が進み、国内に約 10 社あったメーカーが 4 社程度に集約した。三菱ロジスネクストは大手 4 社の流れを受け継ぎ 17 年に現在の形になった。

島津製作所創業家の 2 代目源蔵氏が設立に関わった日本輸送機は、1939 年に国産初の電動フォークリフトを生産。71 年には世界初の無人フォークリフトを開発した。三菱重工業のフォークリフト事業部門は、海外市場で存在感を示してきた歴史がある。TCM は大型特殊荷役車両が得意分野で、日産フォークリフトの強みはエンジンの自社開発だ。

パーパスは、個性豊かな4社を束ねるメッセージにもなる。三菱重工出身の間野社長は、京都・南禅寺にある源蔵氏の墓を訪れたり書籍をひもといたりする中で、「若くして次々と技術開発してきた。改めてすごい人物」と感じたという。その精神を宿した言葉に、新たな企業文化醸成の道しるべとしての役割を託した。

電子商取引（EC）需要の拡大や人手不足などで、世界的にフォークリフトの需要は拡大傾向だ。インドの調査会社、マーケットズアンドマーケットズによると、世界市場は27年に845億ドルと22年比4割伸びる。

「熟練オペレーターとほぼ同じ時速9キロメートルで荷物を運びます」。9月、東京ビッグサイトで開かれた国際物流総合展では三菱ロジスネクストのデモに人だかりができていた。無人フォークリフトが斜めに置いた荷物を拾い上げたり障害物をよけて旋回したりした。

三菱ロジスネクストが開発する新型の無人フォークリフト「AGF-X」はLiDAR（ライダー）で周辺を検知しながら走る。親会社の三菱重工と組むことで自動倉庫など周辺システムと一括提供できる点が強みだ。

間野社長は「今後は自動化と脱炭素が競争軸になる」と話す。スタートアップのラピュタロボティクス（東京・江東）と組み、人による運転と自動運行を併用しやすい車両も目指している。人のオペレーターが作業しない夜中に自動運転モードで作業を続けるなど、作業員と自動システムが共存する現場の需要を見込む。

世界シェア首位の豊田自動織機などの背  
中を追うなかで、力を入れるのが米国市  
場の開拓だ。2月、間野社長は米アリゾナ  
州スコッツデールのホテルで全米の有力  
販売店十数社の社長たちに囲まれてい  
た。「工場に売り込めないか」。自動化  
システムの販売策を練った。

| 日本輸送機と三菱ロジスネクスト<br>の主な歴史 |                              |
|--------------------------|------------------------------|
| 1937<br>年                | 日本電池（現・GSユアサ）を<br>源流に日本輸送機設立 |
| 1939                     | 国産初のバッテリーフォー<br>クリフト完成       |
| 2013                     | ニチユ三菱フォークリフト<br>発足           |
| 2017                     | 三菱ロジスネクスト発足                  |
| 2022                     | 米子会社を通じて現地の物<br>流機器販売会社を買収   |
| 2023                     | 新型無人車「AGF-X」の自動<br>運転を実演     |

9月には、電気自動車（EV）関連の工場や物流関連を念頭に、ドイツの物流機器メーカ  
のユングハインリッヒと米国に共同出資会社を立ち上げた。24年度にはテキサス州ヒュー  
ストンの主力工場に約15億円を投じてバッテリー式フォークリフトを生産する新棟を稼  
働する。拡大市場の取り込みを急ぐ。



2023年 12月8日 担当 虻川

## 物流の運輸労連、賃上げ1万5000円要求 30年ぶり水準

トラック運輸を中心とする労働組合で組織する全日本運輸産業労働組合連合会（運輸労連）は、2024年の春季労使交渉で賃上げの統一要求基準を月額1万5000円とする方針を固めた。定期昇給（定昇）を含めた全体の賃上げ率は6%と30年ぶりの水準を目指す。

6日午前の中央執行委員会で決定した。運輸労連は物流各社など計416組合が加盟し、約10万9000人の組合員を抱えている。

1.5%の定昇に加え、基本給を底上げするベースアップ（ベア）に相当する賃金改善分4.5%の計6%を求める。1万5000円が地域の実態と大きく異なる場合には、各地域ブロックの加盟組合ごとの所定内労働時間賃金をベースとし、6%を掛け合わせて算出する。運輸労連は23年12月に月額1万3700円の賃上げを求めていた。

連合は24年の春季労使交渉で賃上げの要求水準を「5%以上」としている。運輸労連の要求はそれを上回る水準となる。物流業界ではトラック運転手の時間外労働に上限規制が適用される「2024年問題」が差し迫り、中小事業者を中心に今後のドライバー不足が懸念される。物価高に伴う足元の家計負担も踏まえ、待遇改善を通じた人材確保には要求のさらなる引き上げが必要と判断した。運輸労連にはヤマト運輸や日本通運などの労働組合が加盟している。